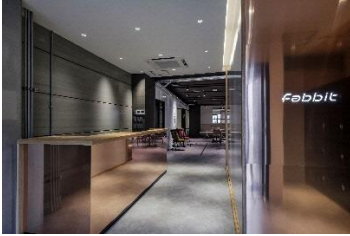


## 【令和2年度 第1回宗像ビジネス交流会「むな BIZ」】

2020年に赤間駅前にOPENした「fabbit 宗像」のオープニングセレモニーと併せて、令和2年度第1回宗像ビジネス交流会「むな BIZ」を7月14日（火）に開催しました。

当日はソーシャルディスタンス確保のため、「むな BIZ」としては初めて、オンライン配信での実施となりました。オンラインでの参加者は最大400名を超え、東京他、大都市圏からのアクセスが半数に上り、「宗像」を全国に発信する機会となりました。



会場：fabbit 宗像 1



会場：fabbit 宗像 2

「fabbit 宗像」・・・JR 赤間駅南口第2自転車等駐車場2階活用事業として、赤間駅前にオープンした、コワーキングスペース等を備えた施設。宗像市、宗像市商工会、および fabbit にて「創業支援事業に関する連携協定」を締結し、宗像市発の地方創生実現を目指している。

URL ( <https://fabbit.co.jp/facility/munakata/> )

## 【「fabbit 宗像」オープニングセレモニー】(fabbit 株式会社主催)

「fabbit 宗像」のオープニングセレモニーには、来賓として、宗像市商工会会長の永島勝次氏、九州オープンイノベーションセンター最高顧問／前福岡県知事の麻生渡氏、福岡県企業振興会協同組合理事長の阪和彦氏が参加され、市長の伊豆もお招きいただきました。セレモニーで主催者挨拶をされた fabbit 株式会社代表取締役の田中保成氏からは、同施設や宗像の更なる発展への期待が語られました。

冒頭の宗像市長伊豆からの挨拶では「宗像市では街の活性化や地域の稼ぐ力の強化のため、創業支援や新たな働き方の推進、女性を始めとした多様な人材の活躍を応援しています。今回、この JR 赤間駅前に『fabbit 宗像』がオープンすることは、このような市の施策への強力な後押しに繋がるものと確信しております。」と語り、創業出来る街として市内外から人が集まり、賑わいや活気が街の活力に繋がることへ期待していると結びました。

テープカットではこの後の「むな BIZ」にご登壇頂いたボードウォーク・キャピタル株式会社の代表取締役社長・那珂通雅氏、fabbit 宗像サポーターの谷口竜平氏も参加されました。



宗像市長伊豆挨拶



テープカットの様子

## 【第1回テーマは「実践！働き方の多様性」】

毎回「むな BIZ」では各回で流行のビジネステーマを設定し、講演やパネルディスカッション、交流会を実施しています。記念すべき令和2年度第1回では、今まさに求められている「働き方改革」としてテレワークやノマドワーカーなど場所を選ばない働き方や起業・副業・兼業などの多様性について、宗像市や福岡県にゆかりのある起業家の皆様を交えてパネルディスカッション、講演を行って頂きました。

司会はサッカーJ2 アビスパ福岡のスタジアム DJ でお馴染みの信川竜太氏、モデレーター（進行役）は「fabbit」のアドバイザーボードでもあるボードウォーク・キャピタル株式会社の代表取締役社長・那珂通雅氏が務められました。那珂氏は日本を代表するエンジェル投資家として延べ50社近くのベンチャー企業のスタートアップを指導され、上場にまで導いておられます。講演後のアンケートでは、「世界の起業家とやり取りされている那珂氏の話をもっと聞きたい」、「地方都市で起業する方への期待や注意点を知りたい」といった回答が多数ございました。



司会の信川氏



進行役の那珂氏

「エンジェル投資家」とは・・・創業間もない企業に対して資金供給を行う投資家のことを指し、資金面だけではなく経営面においてアドバイスや有力者への紹介、橋渡し等で手助けすることもある。

## 【fabbit 宗像サポーターによるパネルディスカッション】

「fabbit 宗像」は様々な分野の先輩起業家12名がサポーターとして創業志望者へアドバイスする体制となっており、今回は12名の中から5名のサポーターにご登壇頂きました。テーマに関するディスカッションを始める前に、まず各サポーターの自己紹介と起業家として携わっている事業等についてご説明頂きました。

### <ブランディングサポーター 谷口 竜平 氏>

谷口氏は宗像市ご出身でデザイナー・ディレクター・プロデューサーを本業とされている傍ら、7200坪の里山をシェアする「むなかたシェアハウス・シェアラボ」や地元の米づくりを広める「宗像日本酒プロジェクト」、渋谷で地元愛を語り合う「リトルムナカタ」、一夜限りのガストロノミーイベント「ガストロバー・ムナカタ」等多くの事業に携わっていらっしゃいます。また、宗像大島の島づくり会社「合同会社 渡海屋」を仲間4人で立ち上げ、世界遺産の沖ノ島に一番近い宿の運営を行い、大島の活性化に寄与されています。登壇では、自身の事業について写真と共にご紹介いただき、特に大島での宿泊事業では宗像のヒト・モノを活かし地域活性化に繋がっていると語っていただきました。

渡海屋 URL ( <http://tokaiya.site/> )

### <ヒューマンリソースサポーター 葛谷(かつたに) 美里 氏>

葛谷氏のご自身で立ち上げられた「Natural-Growth」で代表を務め、宗像市に隣接する福津市を起点に、経営者の課題解決や教育・採用支援、会議ファシリテーション等の提案や支援に取り組まれています。また、所属されているフリーランス協会の「求人ステーション」という取り組みを通して、今回のテーマにも大きく関わっている専門性を持った副業・フリーランスの方と関わっていく企業の相談やサポートも行われています。また、ビフォーコロナ・ウィズコロナでどの様に働き方が変わったのかについて独自のアンケート結果をご紹介頂き、企業のテレワーク増加、時間・場所を選ばない働き方への推移等今回のテーマに話題提供頂きました。

フリーランス協会／求人ステーション URL ( [https://www.freelance-jp.org/kyujin\\_station](https://www.freelance-jp.org/kyujin_station) )

#### <子育て創業サポーター 吉武 麻子 氏>

吉武氏は「一般社団法人 Grandjour (グランジュール)」の代表理事、飲食店向けアレルギー対応コンサルティング「もぐもぐぽけっと株式会社」の代表などを務められています。「Grandjour」では登録制のお仕事サポートコミュニティで、育児中の女性がスモールビジネスを始めるにあたってのサポートコンサルティングが行われています。登録されている方へのコロナに関するアンケート結果では半数以上の方が減収しており、特にお子様の休校やご家族様の在宅勤務による家事増加等によりお仕事が出来なかったという実態についてご紹介頂きました。

一般社団法人 Grandjour URL ( <https://grand-jour.com/> )



左：谷口氏／中：葛谷氏／右：吉武氏

#### <スモールビジネスサポーター 長谷川 嶺 氏>

長谷川氏は育休・産休などの事を考え、ご夫婦で東京から自然豊かな宗像市に移住され「JINSEI inc.」を起業、代表取締役を務められています。また、大手企業向けのコンサルタントや「株式会社 CRAZY」の創業メンバーとしてスタートアップを経験され、現在は「花とお手紙」「えいしんファーム」等の事業を手掛けられています。今後は宗像市を盛り上げていくためにスタートアップ支援をやっていききたいと語っていただきました。

花とお手紙 URL ( <https://www.hanatoletter.com/> )

#### <女性活躍サポーター 河 京子 氏>

河氏は2013年に女性の共同代表3名で創業された「株式会社 Waris」の共同代表を務められ、女性3人×3拠点（福岡・東京・ホーチミン）でのリモート共同経営をされています。「Waris」は主に女性フリーランスのジョブマッチングやキャリア支援、企業への提案等を行われており、創業当時から働く時間、場所にとらわれずリモートワークを社員に導入されています。また、セミナー等を通して女性のリーダーシップや管理職、新しい働き方を積極的に拡散されています。

株式会社 Waris URL ( <https://waris.co.jp/> )



左：長谷川氏／右：河氏

パネルディスカッションではテーマである「実践！働き方の多様性」について、5名のサポーターと那珂氏にて様々な観点でトークが繰り広げられました。「(fabbit 宗像のような) コワーキングスペースに期待する事」としては、地域の方と繋がることや情報収集が出来る、起業したい人と支援したい人とのマッチング、リモートワークの場などの意見があり、ウィズコロナの中で場所・時間にとられない働き方やオフィスで正社員として働くだけでなくフリーランス、起業家として働く方、あるいは興味がある方が増えているため、今後需要や必要性が高まっていくのではないかと意見もございました。

また、「宗像市から世界にアピールしたい事」という議題について、ベッドタウンである宗像市には現在子育てをしているが、様々なスキルをもった女性が多くおられるということもあり、その方々が活躍・発信出来るようにサポートしたいという意見や、場所を選んで働けるようになった今だからこそ、都会ではなく自然豊かで子育てのしやすい宗像市で子供達のすぐそばで仕事出来るという意見、また福岡市・北九州市の中間地点であることから都市や空港へのアクセスの良さを挙げる意見がございました。

最後に谷口氏から視聴者に「まず宗像市に来ていただいて働きながらここで過ごして欲しい。海や山、世界遺産・沖ノ島など豊かな自然を体験して欲しい。」と宗像市の魅力をアピール頂きました。終了後のアンケートでは、サポーターによるスタートアップ支援を期待する声が非常に多く、宗像愛に共感する声も頂きました。



ディスカッションの様子 1



ディスカッションの様子 2

### 【特別講演 ㈱ボーダレス・ジャパン 田口 一成 氏】

ご講演いただいた株式会社ボーダレス・ジャパンの田口一成氏は、福岡県出身で大学2年時に栄養失調に苦しむ子供の映像を見て「これぞ自分が人生をかける価値がある」と決意され、早稲田大学在学中にワシントン大学へビジネス留学。株式会社ミスミにて入社後25歳で独立し、ボーダレス・ジャパンを創業されました。次々とソーシャルベンチャーを生み出すボーダレスグループの仕組みは、2019年グッドデザイン賞を受賞され、田口氏は2019年日経ビジネス「世界を動かす日本人50」、Forbes JAPAN「日本のインパクト・アントレプレナー35」にも選出されておられます。

講演タイトルは「ビジネスと社会貢献は両立できる—ビジネスで社会問題を解決するソーシャルビジネスとは—」。

「ボーダレス・ジャパン」は貧困や差別、環境問題といった社会問題解決を目的としたソーシャルビジネスのみを行っていらっしゃいます。社会問題解決はビジネスの観点からすると儲からないため放置され、政府・国連やボランティアによる活動に依存しており、世の中に1つ位社会起業家のための会社があっても良いという思いからノウハウ・資金・人材を提供し共有する社会起業家のプラットフォームとして「ボーダレス・ジャパン」が生まれ、2019年度の売上は世界13ヶ国35社で54億円とのことです。

講演では、ミャンマー・リンレイ村での葉巻タバコの葉栽培における長年の赤字問題をオーガニックハーブのテスト栽培や資金援助を行い、独自ブランド開発によって、赤字解消へ導いた事業事例が紹介されました。その他にも難民の雇用創出や障害者の通常雇用、ホームレスの再就職等多数のソーシャルビジネス事業を行っていらっしゃいます。ビジネスを作っていく上で大切なのは社会をどういう風に変えたいのかというソーシャルコンセプトで、田口氏の元には1週間で約10名の方が社会のために起業したいというプランを持ってこられるそうです。どうしたら成功するか

よく聞かれるそうですが、起業成功の基本は「辞めない」という事であり、目的に直結したビジネスモデルであれば遣り甲斐に繋がり辞めないとの事です。ボーダレスグループは起業家採用を行っており、起業資金提供、実際に起業をする体験、黒字化への支援、ノウハウ共有等を行っていらっしゃいます。

(株)ボーダレス・ジャパン URL ( <https://www.borderless-japan.com/> )

「働き方の多様性」については、組織が個人をコントロールするというあり方が変化しているため、各自が自分のスタイルで働く事を許容される社会が求められており、「fabbit 宗像」に宗像市を良くしたいという思いの個人がコントロールされることなく集まり協力しあえれば良いとおっしゃっていました。

講演終盤ではオンライン視聴者からのチャットによるリアルタイムの質問に回答頂く場面もあり、宗像市のようなベッドタウンに暮らす主婦や女性の活躍出来る場を作る事は非常に大切であり、ボーダレスグループには女性起業家もたくさんいらっしゃると話されました。

講演後のアンケートでは「田口氏の話をもっと聞きたい」という意見や「ボーダレスグループが行うソーシャルビジネスに感動した」という様な意見が多数ございました。



田口氏ご講演の様子 1



田口氏ご講演の様子 2

「fabbit 宗像」のオープニングセレモニーと同時開催された令和 2 年度第 1 回宗像ビジネス交流会「むな BIZ」は、オンライン配信という新しい形での開催となりましたが、平日にも関わらず全国から多数のアクセスを頂き、アンケート結果からも改めてウィズコロナにおける「働き方の多様性」について関心の高さを感じました。

今後、同施設や 12 名のサポーターを通じて宗像市から多数の起業家が生まれ、「創業できるまち、チャレンジできるまち」として更なる街の活性化に繋がると期待しております。

fabbit 宗像 むな BIZ レポーター